

3 - 3 地域の力を活かした取組みを進めたい



“地域の力”となる様々な“資源”を活かす・組み合わせることが重要

・地域には住民、企業、NPO、交通事業者など、“地域の力”となりうる主体が存在する。地域の関係者がそれぞれの立場で保有する資源を提供し合い、協働して初めて、地域の実情に合ったサービスが提供される。

交通サービスを担う主体は多様化しており、交通事業者は、運営や運行の専門技術と情報を積極的に提供し、市民やNPOは、計画段階から参画して利用者の立場で使いやすいシステムとなるよう提案するなど、地域の関係者がそれぞれの立場で保有する資源を提供し合い、協働して初めて、地域の実情に合ったサービスが提供され、地域のモビリティが持続的に確保される。その意味でも、地域の将来のあるべき姿を提示し、住民や関係者の先導役・調整役としての自治体の主体的役割が期待される。

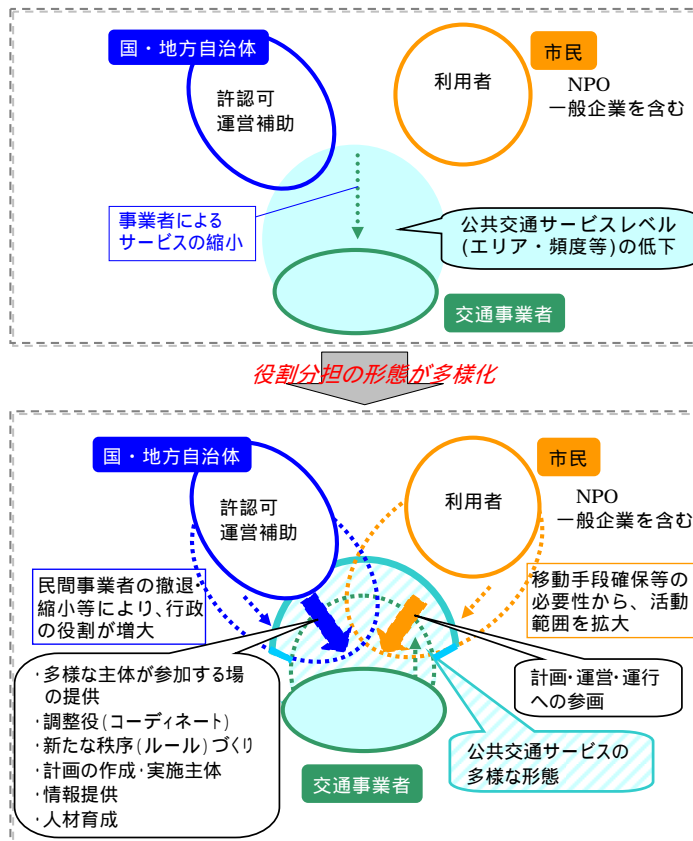


図 3-14 公共交通サービスの担い手の多様化

(出典) 地域の自立的発展のためのモビリティ確保に向けた検討の手引き
(平成 20 年 3 月、国土交通省政策統括官付参事官室)